

赤十字防災セミナーの依頼が増えています



日本赤十字社では過去の災害から得た教訓や救護の実経験を踏まえ、地域住民が自ら災害から命を守り、罹災に伴う心身の苦痛を軽減することを目的に、地域の防災力（「自助」「共助」の力）を向上させるための防災セミナーを学校、企業、地域等で様々な方を対象に実施しています。

令和6年度はセミナー回数、受講者数ともに前年度の2倍以上の実績になりました！！日赤岩手県支部では、高齢者から学生まで、幅広い年齢層の方々を対象に、柔軟に赤十字防災セミナーを実施しています。

災害救護を実施する赤十字の防災セミナーを、みなさん受講してみませんか？



災害エスノグラフィー
災害を読み物で追体験



ひなんじょたいけん
カードゲームで避難所を理解



避難所用テント・
ダンボールベッド設置体験

身近な怪我の手当や事故防止を身につける



日本赤十字社では「人間のいのちと健康、尊厳を守る」という使命を果たすため、身近なケガに対する手当や日常生活での事故防止など、健康安全に関する知識や技術の普及と啓発を行っています。

日赤岩手県支部では救急法、水上安全法、幼児安全法、健康生活支援講習の4種類の講習及び防災セミナーを実施しています。学校や職場、地域の集会等へ指導員を派遣し、ご希望の時間に合わせて開催することも可能です。みなさんのお申し込みをお待ちしています！

受講者大募集！



～お申し込みの流れ～

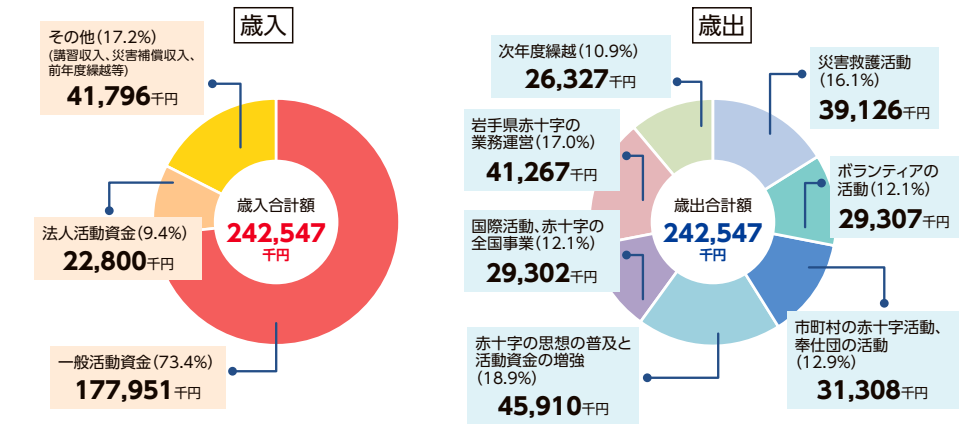
- ①事業推進課まで、講習内容と開催したい日時をお電話にてお伝えください。
※おおむね開催2か月前までにご連絡ください。
- ②申込書をメールにてお送りください。
- ③申込者様と当支部講習担当者間で適宜、お打ち合わせの上、講習を開催します。

項 目	費 用	
	4時間未満	4時間以上
*指導員派遣料（指導員1名につき）	5,000円	8,000円
教材費（必要な場合のみ）	各種小冊子 53円（1冊）、 人工呼吸用マスク 182円（1個）	

*法人の赤十字会員（毎年2,000円以上のご寄付）、JRC加盟校、各市町村の日赤窓口からお申し込みの自治会等の講習開催にかかる指導員派遣料は無料とさせていただきます。

令和6年度 決算報告

6月9日、令和7年度第1回評議員会が開催され、令和6年度事業報告と歳入歳出決算が全て承認されました。皆さまからのご支援を赤十字の活動に有効に活用させていただきました。



※上記には、令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金は含まれておりません。
※病院、血液センター、社会福祉施設は施設毎の特別会計になっており、この決算には含まれておりません。

整備の一例をご紹介します



赤十字救護車（山田町配備）



救護班用網靴

相続・終活セミナーのご案内

個別相談もどうぞ

令和6年4月1日、相続登記の義務化がスタートしました。この機会に相続登記の義務化を含め、「相続」、「遺言」について考えるきっかけにしてみませんか？

今年度のセミナーを12月7日（日）13時30分から盛岡市のアイーナ（いわて県民情報交流センター）で開催します。

希望者の個別相談も行い、参加料無料です。お一人でも、ご夫婦でもご興味のある方はお気軽にご参加ください。

申込みは、お電話または右の二次元コードから



申込ページ



岩手県赤十字有功会加入のご案内



問い合わせ先：組織振興課

有功会は、日本赤十字社の活動（活動資金、献血、奉仕等）に貢献され、日本赤十字社表彰規程に基づく有功章を受章された方々で結成された任意の組織であり、日本赤十字社の強力な支援団体です。今年2月28日に全県の有功章受章者が加入することが出来る「岩手県赤十字有功会」が設立されました。有功章受章者はもちろん、有功章を受章していない方も一定の条件を満たせば加入できます。赤十字最大の応援団組織に加入しませんか？

高額寄付者のご紹介

令和7年1月～6月に岩手県支部へ10万円以上のご寄付をいただき、掲載のご了承をいただいた個人様・法人様のお名前を紹介しています。（順不同・敬称略）

- 個人 ・井戸渕 春男（軽米町） ・山口 昌六（遠野市）
- 法人 ・(有)佐藤電設（一関市） ・岩手県医師信用組合（盛岡市） ・(株)青松（山田町） ・(有)花印（花巻市）
- ・日本住宅(株)（盛岡市） ・第一商事(株)（盛岡市） ・(株)岩本電機（洋野町） ・(株)中館建設（二戸市）

寄付金付き自動販売機設置企業のご紹介

新たに設置いただいた企業様をご紹介します。（敬称略）

- ・南部電気(株)（北上市） ・高光建設・熊谷工務店特定共同企業体（盛岡市）
- ・(有)和興建設（一関市） ・Freest 合同会社（盛岡市）



日本赤十字社 岩手県支部
Japanese Red Cross Society

〒020-0831 盛岡市三本柳6-1-10
TEL 019-638-3610 FAX 019-638-3619
https://www.jrc.or.jp/chapter/iwate/



日赤岩手県支部の最新の活動をSNSでチェック!!

赤十字いわて

No.65
2025
夏季・秋季号

赤十字は、動いてる！



特集

・日赤岩手県支部の大船渡市林野火災対応

災害対策本部、医療救護、こころのケア、救援物資の配布、赤十字奉仕団などの赤十字ボランティア、義援金の受付

・防災・減災への取り組み ～災害に備える～



TEAM
SAVE365

一緒に、救える。

日本赤十字社の活動は、皆様の寄付によって支えられています。



日本赤十字社 岩手県支部
Japanese Red Cross Society

日赤岩手県支部の大船渡市林野火災対応

令和7年大船渡市林野火災 平成以降国内最大の山林火災が、 東日本大震災の被災地を襲った



災害対策本部

発災直後の2月26日から、支部災害対策本部を立ち上げました。
翌日27日には、大船渡市保健センター内に現地災害対策本部を立ち上げ、朝夕にWEB会議で、盛岡市の支部と連絡調整・情報整理を行いました。



医療救護

避難所の開設に伴い、日赤岩手県支部では、2月27日～3月14日まで日赤災害医療コーディネータースタッフ^{*1}、2月28日に救護班^{*2}を1班現地地に派遣しました。避難所を回り、環境を把握したうえで、避難所生活が長期化した際に、健康に悪影響の恐れがある点を、避難所担当職員と共有しました。



※1 災害時に災害医療の総合調整を行うスタッフ
※2 災害時に被災地で活動するチーム（原則、医師1名、看護師3名、事務2名の6名で編成）

こころのケア

日赤岩手県支部では、3月4日～7日まで「こころのケア」班を1班現地地に派遣しました。「こころのケア」は、災害によるストレスを受けた全ての被災者を対象として、精神的ダメージ、心身の疲労、避難生活等から生ずると考えられるストレス状態の軽減を図ります。避難所の環境整備や、感染防止対策の指導、被災者の心に寄り添った傾聴活動を行いました。



救援物資の配布

発災直後から、日赤岩手県支部に備蓄しているもののほか、日赤宮城県支部からも救援物資を被災地に届けました。

・毛布	1,500枚	・緊急セット	150個
・バスタオル	700枚	・段ボールベッド	161台
・タオルケット	1,100枚	・パーティション等	204台
・安眠セット	924個	・屋内用テント	140台



赤十字ボランティア

発災当日から日赤岩手県支部に駆けつけ、職員と一緒に深夜まで救援物資を被災地に搬送した防災ボランティアのメンバーや、被災地での避難所回りや炊き出し、義援金の街頭募金活動などを実施した赤十字奉仕団など、多くのボランティアが様々な活動で、被災地を支援しました。



地元の人にしか話せないことを繋いでいく



大船渡市赤十字奉仕団
委員長 中村 和司
副委員長 鎌田 律子



私たちは奉仕団員であるとともに、民生委員でもあり、避難されている方の中には、日頃から顔なじみの方も多くいました。様々な支援団体が避難所に駆けつけてくださいましたが、訴えにくい避難生活の悩みを、私たちには打ち明けてくださった方もいました。そういった方々の小さな声を拾い、繋ぐことができたのは、地域の方との日頃のお付き合いと赤十字への信頼があったからと感じました。



義援金の受付

被災された方の支援のため、日赤岩手県支部では、岩手県地域防災計画に基づき、令和7年3月6日から令和7年6月30日まで「令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金」を受け付けました。

皆さま方からお寄せいただきました義援金は、岩手県の義援金配分委員会を通じ、大船渡市へ全額を届け、被災された方の被害状況に応じて公平に配分されます。

日本赤十字社岩手県支部
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金
受付金額（令和7年6月30日集計時点）

66,854,477円



大船渡市 保健福祉部 地域福祉課
（日赤大船渡市地区） 大津 泉 様

地域コミュニティを維持しながら避難所を運営

発災時に避難所の立ち上げと運営を担当しました。避難所での地域コミュニティを崩さないよう、自治会長さんなどと相談しながら、生活スペースを決めていきました。そのため、避難所の中で地域住民同士が自然と助け合い、この困難を乗り越えることができたと感じています。

また、県、各市町村、その他多くの団体の方々には、市職員だけでは行き届かない、細やかな支援活動をしていただきました。日頃からの顔の見える関係づくりや関係機関との連携が、災害時の大きな助けになることを、あらためて感じました。

在宅避難者の対応と避難所の感染対策の両立

避難状況の把握や各避難所の対応を担当しました。発災後、いち早く、日赤の職員が駆けつけてくださり、とても心強く感じました。避難所の巡回や在宅避難者の戸別訪問には、日赤をはじめ、様々な団体の支援チームが加わり、自ら率先して活動していただき、私たちを支えてくださいました。

また、避難所の感染対策では、医療的な視点からのアドバイスや、保健師への感染防護具の取り扱いの指導をしていただきました。今回の活動を踏まえ、災害時の保健活動の体制や関係機関の連携について確認し、今後の災害に備えていきたいと考えています。



大船渡市 保健福祉部 健康推進課の皆さま

未経験の局地的な災害

今回の災害は、火災が日を追うごとに広がり、それに伴い、避難所が増えていきました。避難所生活が長期化すると思わず、火災が収まれば、家に帰れると考えていた方も多く、避難所の環境が健康に影響するという意識はあまり無かったかもしれません。

その状況の中で、保健師や関係団体と連携し、我々が支援できることを模索しながら、避難所を回り、ダンボールベッドの配置等の環境改善と感染症対策に取り組みしました。



日本赤十字社岩手県支部
講習普及 係長 熊谷 周子

故郷の被災者への対応

私の地元である大船渡市で起こった今回の林野火災では、支援者として、被災された方のために出来ることは何でもする決意で活動を行いました。避難所の環境は、改善が必要な点も多くみられましたが、「震災の時に比べれば大丈夫」等と語り、その環境を変えようとしなくてもありませんでした。その気持ちも分かりますが、災害関連死を減らすためにも、このままの意識ではいけないという危機感を覚えました。避難生活の環境が健康に及ぼす影響、そして日頃からの意識啓発の必要性を痛感しました。



蛸ノ浦応急仮設住宅

皆さまからお寄せいただく活動資金で
このような活動ができました
引き続きあたたかいご支援をよろしく
お願いいたします